

下野市立細谷小学校



1 学校課題

自ら学び、考え、表現できる児童の育成
～わかる楽しさを味わえる授業の工夫・改善～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

昨年度は、児童の主体性を伸ばしながら、確かな学力の定着・向上を目指し、思いを表現できるよう研究を進めてきた。特に、わかる楽しさを味わえる授業づくりの工夫をすることに重点を置き、自ら学ぼうとする意欲を高め、考えて表現する力を向上させた。しかし、学年末の学力調査の結果を見ると、問題文を正しく読み取る力、複数の情報を関連付けて答える力が十分に身に付いておらず、児童の基礎・基本の定着につなげる指導が十分とは言えない。また、日頃の授業の様子からは、少人数ならではの個別最適な学びの実現に向けて、教師の支援のあり方等の研究が必要であることも課題となった。

そこで、本年度も昨年度までの研究を継続させ、児童の主体性をさらに伸ばしながら、考えや思いを表現できる児童の育成に努めたい。そのためには、わかる楽しさを味わえる授業や実態に応じた授業の工夫改善に加え、知識・技能の定着が図れる工夫が必要であると考え。さらに、少人数ならではの個別最適な学びの実現に向けても研究し、どのような手立てをすることが有効であるか、明らかにしていきたい。

(2) 研究の仮説

わかる楽しさを味わえる授業の工夫や、読み・計算の個別学習の工夫をすることで、基礎的な知識・技能が定着し、自ら学ぼうとする意欲が高まり、考え、表現する力を伸ばすことができるであろう。

3 研究内容

(1) 研究での主な実践内容

①わかる楽しさを味わえる授業づくり

- ・黒板に授業の流れを提示したり、振り返りの前に学習内容の確認をしたりすることで、児童が見通しをもてるようにした。
- ・ICTを活用した振り返りを行い、児童が意欲的に取り組めるようにした。
- ・学力差に応じたペアを組むなど、学習形態を工夫した。
- ・説明文だけではなく、物語や伝記などすべての文章で全文表示を印刷し、児童が文章全体を把握できるようにした。

②表現する力の育成

- ・担任が読み聞かせをしたり、大切な言葉に線を引いたりした。
- ・調べたいときにすぐに調べられる環境づくりをした。
- ・それぞれの教科で、発表や話合いの話型、説明の型、発表で使うとよい言葉などを適宜示すことで、自分の考えを表現できるよう支援した。また、書く活動では、キーワードや文末表現、重要語句などを提示し、表現力を高められるようにした。

③学びに向かう集団づくり

- ・ペアやグループ活動を効果的に取り入れ、自分の考えを伝え合い、互いに高め合う場を設けた。
- ・家庭学習の習慣化を図るとともに、授業とつながりのある自主学習となるような課題を提示した。
- ・工夫した自主学習を紹介し、意欲付けを図ったり内容の充実を促したりした。

(2) 研究授業を通した主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
9/25	1年	「うみの かくれんぼ」 	<p>①ワークシートの工夫 児童が自ら学び、考え、表現する手立てとして、全文表示のワークシートを活用した。全文を見ることで、「問い」に対し、3種類の海の生き物についての答えが同じ順序で書かれているということ気付き、重要な語や文を読み取ることができるようにした。また、それぞれの生き物を一つの表にまとめることで、重要な語や文を比較し、隠れ方の共通点や相違点を見つけられるようにした。</p> <p>②単元構成の工夫 主体的に学習に取り組むための手立てとして、児童が選んだ生き物の居場所、体の特徴、そして隠れ方を調べ、「いきものかくれんぼカード」を作成するという学習課題を設定した。その際、相手意識をもたせるために児童間でクイズをするという場を設定した。</p>
12/13	5年	「大造じいさんとがん」 	<p>①教材・教具の工夫 児童が自ら学び、考え、表現する手立てとして、全文をポスター印刷し、見通しをもって読み進めたり、自分の考えを書き加えたりできるようにした。また、教室内に情景描写に基づく写真を掲示し児童がその情景を想像しやすくした。</p> <p>②単元構成の工夫 主体的に学習に取り組むための手立てとして、印象に残った場面の相違から学習課題を設定し、それらをわかりやすく伝える手段として「レビュー」を作成するという言語活動を設定した。その際、相手意識をもたせるために友達同士で紹介し合うという場面設定をした。</p> <p>③ICTの活用 叙述から印象に残った表現について考え、それを自分のレビューに落とし込む手立てとして、その表現の自分なりの解釈に合う画像・イラストを検索する場面を設定した。</p>

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①単元のゴールや目的を明確に設定することで、意欲的に学習に取り組めるよう工夫ができた。
また、学習計画を立てたりそれを掲示したりすることで児童が見通しをもって学習できるような環境を整備することができた。
- ②書く活動では、各教科の特性に合わせて、キーワードや文末表現、重要語句などを提示したり、ICTの活用を多く取り入れたりすることで、書く機会を増やし書くことへの抵抗を少なくすることができた。
- ③少人数ならではの学習形態を工夫することができた。

(2) 研究の課題

- ①思考・判断・表現する中で、知識・技能を育成させるという意識をもって単元を計画する必要がある。また、そこから普段の読書生活につながるような指導を工夫していく。
- ②児童がもつ疑問や興味関心から課題を設定し、授業により意欲的に取り組める工夫をする。
- ③家庭での学習を、児童が自主的・意欲的に取り組むための手立ての工夫をする。